

第49回（令和2年度）全国豆類経営改善共励会
受賞者概要（関東農政局管内）

○農林水産省政策統括官賞〈大豆 家族経営の部〉

そうま とおる
相馬 亨氏（栃木県大田原市）

○ 令和2年産の生産状況

品種名	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	労働時間 (hr/10a)	費用合計 (円/10a)	上位等級比率 (%)
里のほほえみ	3.1	233	8.1	51,510	81.4

約30年前に1.5ha程度から大豆作付を開始し、水稻・ビール大麦と組み合わせた作付け体系の中で、大豆作を経営の柱とするため少しずつ面積の拡大を図ってきた。所得向上には、面積拡大以上に収量・品質を高いレベルで安定させることが重要であると考え、排水対策や土壌改良材施用を積極的に行い、高水準な収量と品質の確保を実現した。

また、JAの代表として、実需者や加工業者の視察対応を行い、栃木県産大豆の実需者等への理解促進が図られた。こういった取組により、栃木県産大豆を使用した商品の拡大や、JA管内産の里のほほえみを使用した豆乳が商品化されるなど地域農業の活性化に貢献している。

【生産技術改善への取組】

- ・品質の向上のため、無人ヘリコプターや農薬散布用ドローンを用いて発生状況に応じた適切な病虫害防除を行い、高い上位等級比率(1～2等割合が81.4%)を実現している。
- ・収量の向上のため、水稻、ビール大麦と組み合わせた輪作体系を整え、3年4作の田畑転換による連作回避、地力窒素の維持・向上に努め、県平均単収(155kg/10a)を大幅に上回る10a当たり233kgの収量を確保した。
- ・排水対策を最も重視し、大豆作付け前のサブソイラーによる心土破碎や、ビール大麦作付け前にはサブソイラーに加え、プラウによる土壌反転を行うことにより、ほ場の排水性の向上や土壌のリフレッシュを図っている。

【経営改善への取組】

- ・農業機械に関する経費を低減するため、地域の生産者と協力して機械の共同利用に取り組み、10aあたり的大豆生産コストを県平均や全国平均よりも低く抑えることに成功している。